

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所に理念を掲示。朝礼の際には声に出して読み上げ、利用者と接するときには優しさや温かさを意識して業務にあたっています。	事務所に理念を掲示する他、隣接する同法人の介護老人保健施設の職員と一緒に、朝礼時に基本理念を唱和しています。支援が利用者様にとって役に立っているかを大切に、食事準備・清掃・洗濯物たたみ等、職員ペースにならない様に一緒にやっていただいて、やれることを奪わずに優しく支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	令和6年度は、地域の中学生の職場体験学習を受け入れ、利用者の方たちと交流を楽しんでいただきました。	課題であった地域との付き合いは、昨年、中学生の職場体験を受け入れて、ご利用者様と一緒に家事や、入浴後にドライヤーで髪を乾かすなどの体験をしていただきました。中学生の、お礼の手紙も見せていただきました。コロナ禍前のように音楽会・文化祭の招待が再開されることを願っていると伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に向けての発信はできていませんが、職場体験などの受け入れを実施し、認知症との関わり方などを伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	3カ月に一度、運営推進会議を実施し、意見を参考にして、支援につなげています。	運営推進会議は、隣接の介護老人保健施設の会議室で、対面にて3回実施しました。委員は諏訪広域、諏訪市社会福祉協議会、諏訪市介護なんでも相談員、ご家族、ご利用者代表などです。	こまくさの森には、十分な広さの会議室が無いため、介護老人保健施設の会議室を借りています。地域への関わりを進める為、民生委員など地域の情報を把握している方に推進委員として参加をお願いして、地域との関係を図り、避難訓練など防災面でも地域との関係を築くなど、今後の取り組みを期待致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で市町村との連携を図っています。また困った時などがあれば相談しています。	諏訪広域、諏訪市社会福祉協議会、諏訪市介護なんでも相談員が運営推進会議の委員のため、相談はいつでも出来ます。推進会議の中でも認知症の理解を得るように図り、また、こまくさ便りも配布して利用者様の日常が解るようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	昼間は玄関の鍵を開けていますが、職員が手薄になる時間帯等については一時的に施錠をしています。離脱リスクがあるときはアセスメントを行い、なぜ外に行きたいのかを考え対応しています。	身体拘束はしていません。玄関施錠は、昼は開けておきますが、帰宅願望が出やすい夕方など一時的に施錠します。利用者様の行動の動機を理解するようにアセスメントして、前もって気分転換で外に出るなど、対処方法を記録し回覧して、周知を図っています。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について施設内研修を行い、身体拘束や虐待を未然に防ぐことができるよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人を利用している入居者の方がいらっしゃいます。今年度は研修ができなかったので、来年度は行いたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に面談を行い、その時大まかな説明をし、実際の契約の時にさらに細かい部分まで丁寧に説明し、理解を得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面談時や電話での相談を受け付けており、対応内容やその後の様子などを随時伝えています。利用者の要望などは日々の生活の中から聞き出し、反映できるようにしています。	ご家族の面談時に様子をお伝えし、電話での相談を受けています。最近では洋服を買いに出かけたり、食べたい漬物を買に行ったりして、自分で選ぶ楽しみを実感していただきました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や提案を聞き、上司へ報告しています。	利用者様に関する相談、物品購入、行事に関する相談などを受けています。職員意見は毎月2回のカンファレンス時に取り上げ、ケアプラン・モニタリングに反映させています。支援方法の動画などを観て、対応力を付けるように図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	研修や資格取得への体制が整備されておらず、法人全体で、職員が働きがいをもてる環境を整備する必要があります。有給休暇取得は取りやすい職場だと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々に合わせた研修プログラムがまだ整備されていないため、来年度は個々に研修計画を作成し、実施していきたいと考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナにより同業者と交流する機会はありませんが、同一敷地内にある介護老人保健施設と一緒に研修等を行っています。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	まずは不安の軽減目的として、職員から自己紹介するよう努めています。その後は本人の意見を聞きながら生活のリズムを掴むようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族等には、利用者本人の気持ちや状態、それに対して施設で行えることや新しい試みについて報告し、一緒に環境を考えていくようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへの入所相談の際に、ご本人やご家族の希望を聞き、まずは自社グループ施設において必要な支援ができる施設を相談させてもらっています。対応できないときは外部との連携相談も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援と介護の比重において介護の方が多いため、利用者の中には仕事は職員がやるものだと思っている方もいます。暮らしを共に、については実践できていない部分があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とはご本人について相談し、一緒に考えるよう努めています。面会に制限がありますが、対面や電話等で関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染症対策を実施し、外出や面会する機会を作り、家族等とのつながりを持つことができます。	家族との面会は電話で予約をいただいて、ご家族とのつながりを継続できるようにしています。美容院は2か月に1回の訪問カットや、美容師の家族がカットされています。またラーメン屋や『釜めしのおぎの屋』が近くにあるため、外食に出掛ける機会を持ちました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブル席の配置やレクリエーションに力を入れて、利用者同士が集まれる環境づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホームから退居された方にも相談窓口を開き、相談できる体制を作っています。		

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方について、把握しきれていません。日々の生活の中や今までの暮らしぶり、ご家族からの話から推測し対応しています。職員本位にならないよう気を配っています。	これまでの生活歴・好きな事・趣味などをご家族にお聞きし、ご利用者様の気持ちに寄り添っています。畑で夏野菜を作ったり、花が好きな方はプランターで栽培したりなど、できるだけ役割があり、張り合いが持てるように支援しています。職員の都合にならないように留意しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談の際やその後も、ご家族との面談時に、今までどういった生活をしてきたのか伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	月2回のユニット会議で現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族からは、日々の会話の中や面談の際に、家での生活などを聞き取るよう心掛けています。得た情報をケアプラン作成の際に活用しています。	本人・ご家族から聞き取った事を、今ある身体機能を維持できるように心掛けています。介護老人保健施設の理学療法士から、腕や足の機能維持のアドバイスをもらったり、嚥下機能から移動面、情緒面についてなど看護師の職員2名に相談もしています。カンファレンスからケアプラン・モニタリングに反映しています。書類で確認いたしました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケアの様子やその時の様子などを記録し、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームならではの特色を活かして、その日その瞬間のニーズをくみ取り、枠に捉われない支援やサービスの提供に心掛けていますが、なかなか実践に繋がっていません。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源の情報は収集するよう努めていますが、外出や訪問が難しいため実際には行えていないです。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	法人内の医師は、週に1回往診を行っています。専門性が必要な場合には専門医を紹介し受診しています。医療機関の受診の際には、施設で対応しています。	入居時に説明を受け、本人・ご家族の希望で選べるようになっていきます。以前のかかりつけ医や専門医などは受診支援に職員が付き添い、ご家族と病院で合流しています。ほとんどの方は、法人内の医師の週1回の往診を受け、看護師が相談に乗っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の様子を看護師に相談し、その都度指示を仰ぐようにしています。判断に困る場合はすぐに主治医へ連絡し、相談できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談室と連携し、入院前の様子や入院中の様子、退院に向けての調整や退院後のフォロー体制を、相談しながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、事業所で行えるターミナルケアについて説明を行っていますが、実際に体調不良になった際にも再度説明し、ご家族の意向に沿えない際には他施設を紹介する等のフォローを行っています。	入居の契約時に、グループホームで行える支援について説明をし、本人・ご家族の意向を伺っています。機械浴は無いため、介護度が上がった場合や医療的ケアが必要になった場合など、ご家族とご利用者様にとって最善になるように話し合っています。隣接の介護老人保健施設や特別養護老人ホームの、医師や看護師に相談した上で支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についてはマニュアルを用意していますが、体調不良の利用者がいる際には、その都度様子を鑑みて対応を伝達しています。応急手当等の訓練については行えていません。実践力に関しては職員で格差があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は年に2回実施しています。地域の避難場所等は小中学校となるため、法人グループ内への避難を計画しています。	防災訓練は年2回、火災想定で実施していますが、消防署立ち会いの訓練はこれからです。事業所の近くに川がありますが、避難場所として隣接の介護老人保健施設と協力できる他、法人内の2階建て施設も近くにあり、BCP(事業継続計画)はできましたが、研修や訓練は令和7年度に計画を立てる予定と管理者ヒアリングで伺いました。	立地が商業地ということもあり、地域との関係が薄くなっています。BCP(事業継続計画)に基づいた研修や訓練を実施し、消防署立ち会いの防災訓練と、地域の消防団などに協力していただけるような働きかけを期待いたします。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の今までの人生や性格を考慮し、職員本位のサービスにならないよう努めています。排泄の声掛けなどは本人の耳元で対応し、尊厳の保持に努めています。	これまでの生活歴や趣味、好きな事を把握した上で、利用者様本位のサービスになるように言葉掛けなどを気を付けています。認知症への理解を深め、その方のできる日常家事に焦点を当てる様にしています。トイレ誘導も耳元で対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	まずは利用者との関わりの中から、希望を聞きだして把握に努めています。また、「いかがですか?」「どういたしましょう?」等、ご本人が決定できる声掛けを行うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの意向に沿って支援を行うよう心掛け、外出する機会も増えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服と一緒に選んだり、身だしなみを整えてからお部屋を出るように支援しています。現在は、訪問カットで2か月に一回、美容師に来てもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の長所を活かし、皆で協力しながら食事の準備から片付けまでを行っています。	1週間の大きな献立はありますが、職員が食材を見て献立を立て、家庭の手作りの食事のように、食べたいものを反映できるようにしています。ご利用者様が個々にできる事を一緒に協力していただいています。煮物などは2つのユニット分を合同で作るなど、利用者様同士も上手に関われるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の食事量や水分量を記録し、毎日確保できているかを常に視野に入れながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	その方の口腔ケア習慣に合わせた支援を行っています。週に1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持に努めています。現在歯科往診は行っていません。		

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排尿パターンを把握し、なるべく失禁しないようトイレへ誘導しています。自分で付け替えられるようなパットや、上げ下げしやすいリハビリパンツ、布パンツなど、失禁パターンから検討しています。	排泄表でパターンを把握し、ご利用者様の実態に即して失禁を予防できるように支援しています。布パンツ、パット使用、リハビリパンツなど、自立度と尊厳に配慮しながら、ご利用者様が納得できて、その方の為になるように支援しています。汚された時は、シャワー等で清潔を保つようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤に頼らず、食事に食物繊維や乳酸菌を取り入れ、苦痛なく排便が行えるよう医師・看護師と相談しながら行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ご本人の入りたい時間を相談し、なるべくそれに沿った対応を心がけています。基本的な曜日は設定していますが、その日の気分で入れるように努めています。	週2回の入浴を基本に曜日を設定はしていますが、ご利用者様の入りたい日と時間に合わせるようにしています。24時間シートに記録し、朝入りたい方、遅くに入りたい方、拒否があった場合は日や時間を変えるなど、その日・その時の気持ちに合わせ、職員の勤務体制を見ながら柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室はいつでも休めるようにしており、リビングでウトウトしていた際には声をかけ誘導しています。畳スペースやソファなども活用し、くつろげる場所を増やすようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の説明書をファイルにして、何の薬を飲んでいて、どのような効果や副作用があるかを見やすいようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者のできることをアセスメントし、役割づくりができるよう支援しています。趣味ややってきたこと、嗜好品などをご本人やご家族に伺いながら用意し、対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在施設敷地内の散歩程度となっており、外出の機会を設けることができていません。	年間行事計画に従い、外出は高島城の花見や諏訪大社上社に出掛ける他、全員が班に分かれて、釜めしの外食や、ラーメン屋に行ったりしています。焼き芋、お茶会、秋刀魚をベランダで焼く、また歌謡ショーなど工夫しており、こまくさ便りでご家族にも郵送しています。気分転換のレクリエーションは職員も楽しんでいます。ご利用者様の希望で、洋服や漬物を買に行くなど、その時の希望を叶える外出支援も増えつつあると、職員ヒアリングで伺いました。	

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お一人毎、財布を用意し、お小遣いをあずかり、そのなかでご本人が希望したものは購入をしています。現在は一緒に買い物に出られない為、職員が対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話の使える方は持参しています。また、ご本人から希望があればご家族へ電話をし、やり取りができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの設えや季節の花、音楽やテレビの音量などに気を配り、くつろげる環境やみんなで楽しめる環境など、その時々にあわせた環境作りをしています。	季節感を大切にグリーンや花など、リビングのしつらえを工夫し、音楽やTVの音量なども配慮しています。一人で寛ぎたい方は廊下のソファで過ごせます。ご利用者同士がふれあい、関わりを持てるように、職員が間に入っています。書き初め、折り紙、塗り絵、畑に出る、プランターで夏野菜や花の栽培、水やり等、気分に合わせて支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人でくつろぎたい方や、仲のいい方同士で一緒にになれるよう配席に留意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と相談し、自宅から思い思いの物を持参したり、活動の中で作ったものを飾ったりとそれぞれの部屋作りをしています。	施設の備え付けのベッド、チェストは配置を変えて、個々にレイアウトできます。家から持参した写真や使い慣れた家具も置かれ、それぞれ居心地の良い居室になるよう、入居時にご家族と工夫されています。介護用のベッドや車いすなど、使い勝手の良いものをレンタルされている方もおります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人が使いやすい事、こだわりのある事などを鑑みて、表示や明るさ、使いやすさを考慮し環境を変えています。		